

地域社会とともに

中国での社会貢献活動

西安工程大学へ最新ミシンを寄贈

ミシンの提供だけでなく、技術指導でアパレル産業の発展に貢献

西安工程大学は、衣類を製作する上で最適な生地、糸、ミシン、縫製条件など、縫製全般の研究をしています。卒業生の多くは、全国各地のアパレル会社で、デザイナーや服の型紙を作るパタンナーとして活躍中です。兄弟機械(西安)有限公司(以下、BMX)は、その研究レベルの高さ、先生や学生の皆さんの熱心な姿に感銘を受け、最新ミシンの提供を通じて大学に協力したいと考えました。ミシンを使用する学部がいくつもある中で、ブラザーのミシンがどこで一番必要か、有効に活用できるかについて大学側と検討を重ねた結果、大学の一機関である服装工程技術研究センターに寄贈することを決めました。

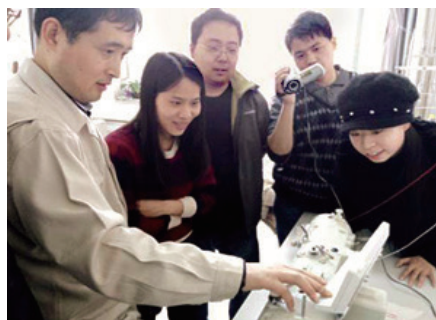
2014年12月19日にミシン(本縫いミシン1台、電子千鳥ミシン1台、冪止めミシン1台、二本針ミシン1台)の贈呈式を行い、翌年1月9日には研究室へのミシン搬入、据付、取り扱い指導を行いました。

西安工程大学教授は「このプロジェクトは、BMXと大学の双方にとって有意義な産学連携であると思います。BMXの皆さまの日々の努力があったからこそ、現在一流の設備のなかで学生たちは研究実験ができ、縫製設備への理解向上につながっていると思います。今後もBMXと共にアパレル業界の発展に努力しようと考えています」と述べられました。

BMXは、今後もミシンの寄贈だけでなく、技術指導や工場見学の実施、ミシンを使用していただいた先生や学生の皆さんとの情報交換を行っていく予定です。こうした活動を通じて現地大学の研究と教育を支援し、アパレル産業の発展に寄与していきたいと考えています。



大学の皆さんと記念撮影



BMX従業員がミシンの取り扱い方法を説明